

令和 7 年度 宍粟市学校評価 学校関係者評価報告書

学校名	宍粟市立波賀小学校
-----	-----------

1 本年度の学校経営方針

学校教育目標：波賀を愛し、自分を磨き、認め合い高め合う心豊かな児童の育成～ つなぐ手、つなぐ心、めざす夢 ～ (1) 児童の夢を育む学校づくり (2) 教師力を高める学校づくり (3) 保護者や地域の人々との絆を深める学校づくり	(ア)すべての児童が目標をもち、自分を磨き主体的に活動する学校 (イ)児童が仲間意識をもち、切磋琢磨しながら集団として高まる学校 (ウ)目標の実現に向けて、児童が主体的に工夫と努力を重ねる学校 (ア)教職員が高い意識と同方向性をもち学校経営に参画する学校 (イ)教育目標の具現化にむけて教職員が創意工夫を重ねる学校 (ウ)教育公務員としての高い倫理観と使命感をもち、児童に向き合う学校 (ア)保護者や地域の声に耳を傾け、地域とともに歩む学校 (イ)安全・安心な教育環境づくりを進める学校 (ウ)保護者や地域に対して積極的に情報発信し連携する学校
---	--

2 本年度の学校重点目標

(1)児童の実態を把握し、あいさつの指導や読書活動・スキルタイムをさらに充実させ、生活に結びついた基本的な生活習慣や学習意欲・基礎学力の定着及び向上を図る。 (2)課題解決能力(コミュニケーション能力、情報活用能力、挑戦力)を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを展開する。 (3)特別支援教育の視点から、一人一人の多様な教育的ニーズに応じたきめ細かな指導と支援が行えるよう協働して研究と実践に取り組む。 (4)学力向上のための実践や研修をすすめ、教師の専門性を高め実践的な指導力の向上に協働して取り組む。また、ICT機器活用の積極的な活用と教職員のスキルアップを図る。 (5)いじめや問題行動の未然防止や早期発見、早期対応、早期解決に向け、学校・家庭・地域が一体となって取り組む。 (6)保幼小中連携・小中一貫教育を推進するとともに、読書ボランティアや見守り隊などの学校支援ボランティアとの連携を充実させ、地域の学校としてコミュニティスクールを推進する。
--

3 自己評価結果 (A～D)

A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組) 評価指標および目標値 (期待される姿)	評価資料 ※太字は、A以上の数値	達成状況	改善の方策
①生涯学習の 基盤づくり	項目 あいさつや礼儀など基本的な生活ルールを守ることや集団で協力しあうことのすばらしさを味わわせる教育の推進 指標 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童 3.7 保護者 3.3 教職員 3.2 アンケート	A	A ・ペア・グループ交流や理由を伝える話し合い活動を継続し、自分の考えをもち、相手の考えを受け止めながら表現できる力を育成する。あたたかい雰囲気の中で発表経験を積み、自信につなげていく。 ・幼・中・地域・異学年との交流活動を計画的に行い、多様な立場や考えにふれる機会を保障することで、協力することのよさやコミュニケーション能力の向上を図る。 ・学び直しの時間やすきま時間を活用したミニ学習を取り入れ、つまずきをそのままにしない授業づくりを行うことで、「わかる・できる」実感を高め、学ぶ意欲を育てる。
	項目 児童が認め合い、高め合う居心地のよい集団づくりの推進 多様な考えにふれ、ともに伸びる授業づくり 指標 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童 3.5 保護者 3.6 教職員 3.6 アンケート	A	
	項目 豊かな感性・コミュニケーション能力の育成 (交流活動・読書タイムの充実) ペア、グループ交流など表現する機会の充実 指標 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童 3.5 保護者 3.4 教職員 3.6 アンケート	A	
	項目 勤労を尊び、学びを生活に生かす能力の育成 問題解決能力の育成 指標 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童 3.3 保護者 3.4 教職員 3.3 アンケート	A	

総合的な学校関係者評価

・全体的には、先生方の皆様にはとても感謝しています。先生方もお忙しい中、児童一人一人に対し、真摯に向き合っていただき、今の難しい時代の中、とてもありがたいです。子供達も楽しく授業が受けられているんだと子供達の話しを聞いて想像ができます。小中一貫もまだ3年しかたっていませんし、まだ色々改善する事もあるかと思いますが、今のままの方針で頑張って頂きたいと思います。 ・各評価項目について、いずれも概ね目標が達成されており、教育活動全体として高い水準で実施されていると思います。今後も継続的な取組により、さらなる充実を期待しています。 ・行事や交流会、職員間での連携などから、先生方の温かなまなざしや、子ども達が様々な経験ができるよう創意工夫をし、取り組んでおられることを感じました。今後も児童、家庭、地域、学校が一つとなった学校運営に期待します。 ・児童のアンケート結果を見ると楽しい学校生活を送れ、わかりやすい授業であると感じている児童が多く充実した学校生活を送れている様子に、先生方の努力を感じました。また、小中の交流を通して中学生への敬意や憧れも育っており、小中一貫教育の成果を感じています。引き続き御指導よろしくお祈いします。
--

学校関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	・あいさつについては、子供自体はできていると思いますが、子供達から率先して大きな声であいさつができるようにしてほしいです。 ・学習面では、自分の子供も宿題をやったらもう勉強はしなくていいと思っています。もっと向上心を持ってほしいのですが、クロームブックをもっと活用し宿題を少し増やしてもらうか、もっと本を読むように2週間に1冊読んで感想文を書いてもらうとか考えてもらってもよいのかとも思います。 ・あいさつについて、児童より保護者・教職員の方が低い評価となっている。今後は、自ら進んで挨拶できる児童が増えればよいと思う。 ・学校生活のなかでの様々な場面で、児童同士、声をかけあったり、相談したり、支え合ったりする姿から、各学年の成長を感じました。子ども達の主体性や協働性を大切にした取組を今後も継続をしていってほしいと思います。 ・あいさつは、人間関係を円滑にし、コミュニケーションを活性化させる手段となり、自身の気持も前向きにする効果もあると思う。習慣化できるよう今後も指導をお願いしたいです。 ・家庭学習について児童の意識と保護者のとらえ方に差があるように思う、この意識の差を埋めるため家庭内で子どもまかせにせず励みになる言葉がけや頑張りを認める親の態度も必要かと思う。

② 教職員の 資質向上	項目 ----- 指標	一人一人を大切にしたい人権教育の推進 いじめの未然防止、教室環境等、誰もが安心・安全な学校づくりの推進 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.5 保護者3.6 教職員3.9 アンケート	A	A ・人権教育を基盤に、一人一人の児童理解を大切にしたい指導を行い、いじめの未然防止や安心安全な学級環境づくりを全教職員で共通理解のもと進める。 ・ICTを効果的に活用した授業改善や校内研修を進め、言語活動の充実や思考を深める学習過程を重視した授業づくりを行い、学力向上につなげる。 ・校務の効率化や業務の整理を進め、放課後の振り返りや教材研究の時間を確保することで、授業改善や支援の質を高め、教職員の専門性向上を図る。	◎ ◎ ・子供が休んでいてもICT活用してもらっているのが、子供達にはとても良いと思います。 ・子供達にはやさしく真摯に向き合って教育していただいているので、本当にありがたいと思っています。ICTが苦手な先生もいるとは思いますが、子供達の向上心の為に大変だと思いますが、頑張っしてほしいです。 ・小中一貫オープンスクールでは、中学生が小学生にタブレットの使用方を教える授業を実施するなど、児童生徒同士の学びを生かしたICT活用が積極的に行われていて、とてもいい取組だと思いました。 ・全職員での共通理解や、児童一人一人に寄り添いかかわっておられる姿勢に感動しました。子ども達が安心して過ごせる学校づくりにつながっていると思います。 ・いじめ事案に関しては個々の小さな変化にも気付き、また外部からの認知で職員間での情報共有や即時対応がされており安心しました。 ・本会議の中で学校の様子をパワーポイントで見せてもらったりお話を聞き、ただでさえ行事の多い中、オーストラリアとの交流や小中、幼保との交流など計画から実行への先生の多忙さを感じました。でもその体験の中で子ども達の自信や思いやりが育っている様子もうかがえ成果を感じました。 ・これからの時代、ICTとの共生は必須となる。親子で正しく、賢く使う事を学ぶ必要があると感じる。
	項目 ----- 指標	子どもの学びを支える取り組みの充実 一人一人の多様な教育的ニーズに応じた支援の充実 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.5 保護者3.3 教職員3.6 アンケート	A		
	項目 ----- 指標	学力向上のための実践研究（ICTの積極的活用） 言語活動の充実を図るための授業改善・授業研究 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.5 保護者3.6 教職員3.3 アンケート	A		
	項目 ----- 指標	校務の効率化（ICTの機器活用等）、業務終了後のデータ整理や反省・工夫改善検討に努めている 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	教職員3.4 アンケート	A		

観点 (重点目標)	評価項目（学校・教師の取組） ----- 評価指標 および目標値（期待される姿）	評価資料	達成状況	改善の方策
③ 地域 の 推 進 小 中 一 貫 教 育	項目 ----- 指標	保幼小中連携と小中一貫教育の推進（交流活動・地域の方々とのふれあい活動・乗り入れ授業等） 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.6 保護者3.3 教職員3.7 アンケート	A
	項目 ----- 指標	家庭と連携した読書・基本的学習習慣の育成 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.3 保護者2.9 教職員2.8 アンケート	B
	項目 ----- 指標	学校支援ボランティアとの連携 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	児童3.5 保護者3.7 教職員3.7 アンケート	A
	項目 ----- 指標	コミュニテュースクールの推進（オープンスクール、ふるさと学習）の推進、学校の情報発信（校報・学級だより・HP・メール等） 肯定度 A:3.2以上 B:2.8以上 C:2.5以上 D:2.5未満	保護者3.5 教職員3.6 アンケート	A

自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	・小中一貫教育について、参観日の時に拝見させていただきましたが、中学生が小学生に真剣向き合い、取り組んでいる姿を見て、とても良いと思いました。また、もっと小中の交流をしてもいいのではと思いました。中学生を見る事で、小学生の良き手本や目標になるのでは、と私は思います。 ・読書に関するアンケート結果では、課題も見られるが、今後は児童が進んで読書に親しむことができるよう、読書活動のさらなる工夫が期待される。 ・ふるさと学習をはじめとした地域とのふれあいを大切にしたい活動が充実している。児童が地域への理解や愛着を深めるよい機会となっていてとてもいい取組だと思いました。 ・保幼小の交流において、園児は小学校児童への憧れや親しみを抱き交流を楽しみにしたり、小学校入学を楽しみにしたり、小学校の先生に親しみを抱く姿があります。職員間で連携を行うことが、幼児・児童の発達段階に応じた交流につながっていると思います。今後も保幼小中が、学びのつながりや交流の持ち方について意見交換などの連携を行い、より交流が充実したものとなるよう取り組みをお願いします。 ・合理化優先の昨今、親世代祖父母世代に至っても、この波賀町での伝統や文化を身につけていない人も多い。しかし、知っていると先人の想いや知恵に改めて感心する事もある。そういう地域の名人や達人から話を聞いたり供に何かを体験したりそんな人を探す事ができたらいいなと思います。 ・読書については、子どもに読書を促すため、家庭で一緒に楽しめる時間を持てたら効果的だと思います。

自己評価における特記事項

- ・今年度の学校評価アンケートでは、児童・保護者・教職員のいずれにおいても、多くの項目で高い評価が得られ、学校生活や授業、学校の取組が肯定的に受け止められていることが確認できた。特に、児童アンケートにおける「楽しく学校生活を送れている」「先生の授業は楽しくてわかりやすい」「『ありがとう』『ごめんなさい』が言えている」などの項目や、保護者アンケートにおける「友だちと仲良く遊び、優しく関わっている」「地域と連携した学習」「地域ボランティアの取組が子どもたちの成長に効果的である」といった項目では、いずれも高い数値が示され、本校が大切にしてきた人権教育や地域とともに進める教育活動の成果が表れていると考えられる。一方で、全体として肯定的な評価が多い中であっても、数値として相対的に低めに表れた項目から、今後の課題も明らかになった。保護者アンケートでは、「家庭学習に取り組む習慣が身についている」「家庭で一緒に読書や家の仕事に取り組んでいる」といった、家庭での学びや生活習慣に関わる項目が基準値を下回っており、学校での学びが家庭での実践や習慣化に十分につながりきっていない現状がうかがえる。児童アンケートにおいても、「家や学校ですすんで読書をしている」「学校で学んだことを家でもやってみようとした」といった項目が他と比べて低く、学習や読書を生活の中で自発的に広げていく点に課題があると受け止めている。
- ・教職員アンケートでは、「家庭と連携した読書・基本的学習習慣の育成」に関する項目が他の項目に比べて低く、学校として取組の必要性を感じながらも、十分な手立てや成果につなげきれていないことが示された。このことから、家庭任せ・学校任せにするのではなく、家庭と学校が役割を共有し、無理のない形で連携を深めていく方策を検討していく必要がある。
- ・良好な評価は教職員一人一人の努力の積み重ねによるものであり、その点については深く感謝している。一方で、教育活動の充実や取組の広がりに伴い、教職員の業務負担が増加することへの懸念もある。今後は、教育の質を高める取組を継続していくためにも、働き方改革の視点を踏まえ、行事や活動の精選、内容の工夫、業務の整理を進めていくことが重要である。教職員の異動を前提とした学校運営を意識し、学校全体で共有できる仕組みや体制づくりを進めながら、教育の充実と教職員の働きやすさの両立を図っていきたい。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・小学生の児童も少なくなっている現状では運動会や学習発表会の行事も一緒に行うことはできないでしょうか。また、廃品回収も今年は、小中一貫で年2回実施されていましたが、以前は中学校は2回、小学校は1回であったため、4ヶ月に1回行い、年3回行うことで、少しでも収入があればいいのではと私は思います。子供達の学校生活が少しでもよくなるのであれば、PTAの皆様は、協力してくれるはずだと思います。

・学校生活への満足感や相談体制について課題を感じている児童もいることから、今後も教職員によるきめ細かな関わりを継続していくようお願いしたい。
・教職員アンケートにおいて行事の多さを課題とする声が見られることから、今後は行事の在り方を見直し、学習の基礎基本を大切にしたい取組の充実ができたかなと思います。

・「はがの里学校コミュニティ」の発行は年2回されていますが、まとめとして1年に1回でも良いのではないかと思います

・アンケートの回答の少人数の子ども達に対してよりきめ細やかな指導をお願いします。